

第2 地域療育センター運営事業

地域療育センターは、横浜市が策定した「障害児地域総合通園施設構想」により設置された地域における療育の中核施設として、障害のある小学生までの児童とその家族が、地域の中で安心して生活できるよう、関係機関と連携しながら運営を行いました。

今年度も、これまでの地域療育センターの枠組みに捉われず、利用者や関係機関のニーズを的確に把握しながら、引き続き迅速で質の高いサービス提供を行い、満足度の向上に努めました。

今年度、地域療育センター全体として重点を置き、実施、検討した項目は、次の4項目です。

- ◇ 地域療育センターの利用増加や、ニーズ・状態像の変化や多様化に対応するため、各センターとも支援のバリエーションのさらなる拡大と充実を図りました。
- ◇ 相談開始直後の不安や、子育ての困り感の強い保護者を優先的に、一次支援として早期に心理相談に導入しました。子どもの行動を、その理由から理解して対応を考え、子育てに肯定感を持てるよう精神的にサポートしました。
- ◇ 事業団利用者専用サイト「tsunagaru—つながるウェブサイト—」等を活用して、各センター毎に情報発信や、保護者教室等をオンラインで実施しました。
- ◇ 社会環境の変化やニーズに即した横浜市全体の療育の再構築に向けて、事業団内で課題と方向性を共有、検討しながら、今後の地域療育センターのあり方について、引き続き横浜市こども青少年局及び他法人と定期的に協議しました。

センター名	主な担当区
戸塚センター(児童発達支援事業所「ぴーす東戸塚」を含む。)	戸塚・泉
北部センター(児童発達支援事業所「ぴーす中川」を含む。)	緑・都筑
西部センター(児童発達支援事業所「ぴーす鶴ヶ峰」を含む。)	保土ヶ谷・旭・瀬谷
港南センター(児童発達支援事業所「ぴーす港南」を含む。)	港南・栄

また、各地域療育センターにおいて重点を置き実施した項目は、以下のとおりです。

- ◇ 戸塚センターでは、多様なニーズに対応するため、週1クラスを10グループ実施するとともに、保育所・幼稚園への支援として、園の夏休み期間に、療育参観週間を実施しました。
- ◇ 北部センターでは、療育講座、基礎講座、就学準備講座、学齢基礎講座等全ての講座を一元化して利用者から見えやすくし、支援の内容を分かりやすく整理しました。
- ◇ 西部センターでは、一次支援の強化と、一次支援から始まる総合プランをチームで作成し、外来カンファレンスで共有する形を整えました。
- ◇ 港南センターでは、療育ニーズの多様化への対応として、児童発達支援の週1ク

ラス(保護者就労で中重度障害の児童)を2クラス、外来初期療育グループでは低年齢児向けに少人数の短縮プログラムを試行しました。

1 相談

- ◇ 相談開始直後の不安や、子育ての困り感の強い保護者を優先的に、一次支援として早期に心理相談に導入しました。子どもの行動をその理由から理解して対応を考え、子育てに肯定感を持てるよう精神的なサポートを行いました。
- ◇ 相談申込後の初回面接で、必要な支援内容を保護者と共有し、広場や個別の相談へ導入しました。保育所・幼稚園での生活に困難のあるケースについては、電話相談や訪問により、センターでの相談とアウトリーチを連動した支援を展開しました。
- ◇ 北部センターでは、兄弟児保育について、地域の協力を得て実践しました。障害のある児童と家族の支援を進めるには、地域の関係機関の理解が不可欠であり、利用者が気軽に利用できる資源を見い出し、さらなる連携に努めます。
- ◇ 西部センターでは、学齢前期児童に拡充している心理士相談について、保護者の不安を軽減し、児童への適切な対応につなげるため、担当ソーシャルワーカーが心理士と緊密に連携しました。また、学校生活が困難なケースについて、電話相談やカンファレンスを行い、環境調整を図りました。

(実績：新規利用児数)

	全体(内学齢児数)		昨年度全体(内学齢児数)	
戸塚センター	596人	(55人)	568人	(76人)
北部センター	672人	(166人)	544人	(122人)
西部センター	582人	(95人)	536人	(96人)
港南センター	455人	(71人)	400人	(83人)
合計	2,305人	(387人)	2,048人	(377人)

(実績：利用申込み数の推移(精神系未就学))

27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
1,426人	1,451人	1,668人	1,649人	1,624人	1,599人	1,973人

2 診療・訓練

- ◇ 知的系の親子を対象に、個々の特性に合わせた個別療育プログラムと、総合評価を目的としたグループプログラムを継続して実施しました。総合評価に向けた仕組みづくりについては、引き続き検討していきます。
- ◇ 肢体系の親子を対象に、随時参加可能なグループを拡大して実施しました。育児支援や遊びの場の提供に加えて、利用者が必要な療育につながりやすくするため多職種が一体となって運営しました。
- ◇ 西部センターでは、書類・処方のみといった特別外来方式が定着したことにより、診察枠の効率的な活用と、一般外来へのタイムリーな導入が可能となりました。
- ◇ 港南センターでは、医師の専門領域等に応じて、補完する心理評価を同日に行うなど柔軟な体制を整えました。

(実績)

※()内は昨年度

センター名	診察数	各種訓練数	外来集団療育数
戸塚センター	3,202人 (2,588人)	5,612件 (4,693件)	167人 (133人)
北部センター	3,780人 (3,442人)	6,201件 (6,369件)	71人 (9人)
西部センター	2,656人 (2,484人)	7,926件 (7,217件)	105人 (93人)
港南センター	2,381人 (1,975人)	6,563件 (6,157件)	137人 (129人)

3 集団療育

(1) 医療型児童発達支援 (戸塚・北部・西部：定員40人、港南：定員30人)

- ◇ 要医療配慮児童が安全・安定的に登園できるよう、家族の希望と綿密に調整を図りながら支援しました。また、保護者同士が交流できる懇談や勉強会を適宜設定しました。
- ◇ コロナ感染拡大防止のため、保護者教室や懇談会は分散形式で、映像配信も活用して実施しました。年齢や継続年度、疾患によってテーマを変え、より成長段階をイメージできるよう配慮しました。
- ◇ 戸塚センターでは、新たに設定した2歳児のグループは、週1回の頻度ということもあり、参加ニーズが高いクラスとなりました。次の処遇として、通園や地域集団へとつなぎました。
- ◇ 港南センターでは、低年齢から通園する事により、継続した保護者支援につながりました。また、保護者教室と外来向け療育講座の双方を柔軟に活用しながら、保護者との関係づくりを進めるとともに、卒園後の保護者懇談も実施しました。

(実績)

※()内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	4人 (5人)	10人 (3人)	14人 (8人)
北部センター	8人 (7人)	8人 (6人)	16人 (13人)
西部センター	14人 (18人)	10人 (6人)	24人 (24人)
港南センター	12人 (11人)	17人 (16人)	29人 (27人)

(2) 児童発達支援 (戸塚・北部・西部：定員50人、港南：定員60人)

- ◇ 低年齢中重度の児童対象のプレ通園は、その多くが通園へとつながり、また療育についての理解を深めることができました。さらに、次年度の頻度選択や地域の集団選びの参考として頂きました。
- ◇ 「tsunagaru—つながるウェブサイト—」等を活用し、動画配信等を行いました。親子日等は分散実施したことで、少人数での懇談によって、より保護者間の関係が深まったと評価を受けました。
- ◇ 戸塚センターでは、保護者教室について、VTRを活用して回数を分けて実施したり、平日に来所することができない保護者向けにオンラインでの配信を試みました。また、週5クラスの親子向けに運動プログラムを提供しました。
- ◇ 北部センターでは、保護者の就学へのイメージが持てるような座談会等を、分散実施しました。また、児童の特性を保護者が理解できるように、日々の療育の様子をビデオ撮影して学ぶ場を設定し、併せて、学校の先生にも引き継ぎ説明しました。

(実績)

※()内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	41人 (54人)	82人 (55人)	123人 (109人)
北部センター	48人 (58人)	52人 (45人)	100人 (103人)
西部センター	39人 (37人)	40人 (47人)	79人 (84人)
港南センター	49人 (45人)	64人 (71人)	113人 (116人)

(3) 児童発達支援事業所「ぴーす」 (戸塚・北部・西部・港南：定員 48人)

- ◇ 横浜ラポールと連携して、スポーツ活動プログラムに試行的に取り組み、運動評価の視点とプログラムの展開方法を学び、実践しました。
- ◇ 卒園後の1・2年生の保護者を対象に、保護者懇談会等を実施し、近況報告や悩みを共有して、皆で対応を考える機会となり、好評でした。不登校児へのグループ支援についても、継続して実施しました。

(実績)

※()内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚(ぴーす東戸塚)	11人 (16人)	36人 (35人)	47人 (51人)
北部(ぴーす中川)	9人 (26人)	39人 (29人)	48人 (55人)
西部(ぴーす鶴ヶ峰)	24人 (42人)	48人 (36人)	72人 (78人)
港南(ぴーす港南)	26人 (0人)	29人 (30人)	55人 (30人)

4 地域支援

- ◇ 関係機関とオンラインで打ち合わせや会議を行い、新しいつながり方を模索しました。特に子育て支援拠点、地域ケアプラザ地域活動コーディネーターと連携を深め、互いの強みを活かした協働事業の計画について協議を始めました。

(実績：0歳4か月療育相談)

※()内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	12回 (12回)	42人 (41人)	1人 (4人)
北部センター	9回 (11回)	46人 (59人)	11人 (2人)
西部センター	12回 (11回)	98人 (76人)	7人 (5人)
港南センター	12回 (11回)	48人 (20人)	3人 (6人)

(実績：1歳6か月療育相談)

※()内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	5回 (7回)	9人 (11人)	4人 (6人)
北部センター	6回 (5回)	8人 (9人)	5人 (6人)
西部センター	6回 (6回)	10人 (10人)	5人 (7人)
港南センター	4回 (2回)	5人 (2人)	1人 (1人)

(実績：関係機関技術支援)

※()内は昨年度

センター名	機関数・回数	
戸塚センター	89 か所・92 回	(92 か所・93 回)
北部センター	167 か所・185 回	(111 か所・123 回)
西部センター	168 か所・181 回	(99 か所・141 回)
港南センター	152 か所・164 回	(90 か所・133 回)

(実績：学校支援事業)

※()内は昨年度

センター名	学校数・回数	
戸塚センター	14 校・14 回	(13 校・13 回)
北部センター	13 校・22 回	(15 校・17 回)
西部センター	2 校・2 回	(7 校・7 回)
港南センター	12 校・15 回	(13 校・16 回)